

「校内研修 小学部中学年グループ研究授業」

今年度は、「児童生徒の学びをつなぐ授業作り～学習指導要領の確実な実施と単元評価の充実～」をテーマに研修を行っています。今回は、小学部図画工作科の授業をもとに、「児童の学びの姿」や「今後の授業アイデア」について意見を交換しました。

小学部中学年グループ	図画工作科 「粘土でおみせやさんごっこ」	小学部 図画工作科 2段階 A表現
------------	----------------------	-------------------

児童の学びの姿について

◎本時の目標（学びの履歴を踏まえた各教科等の指導目標）

「知識及び技能」	「思考力・判断力・表現力等」	「主体的に学習に取り組む態度」
◎	◎形を基に、自分のイメージをもちながら、食べ物の写真やイラストを見て、つくりたい食べ物を思い付くことができる。	◎粘土でつくりだす喜びを感じながら、進んで好きな食べ物を粘土で表現する学習に取り組もうとしている。

複数あるイラストの中から選び、自分の言葉も聞かれた。

サラミと納豆では指の使い方が違う！イメージができています。

初めてのことが苦手なお子さんなのに、集中している。

ピザの具を、自分から作っていた。

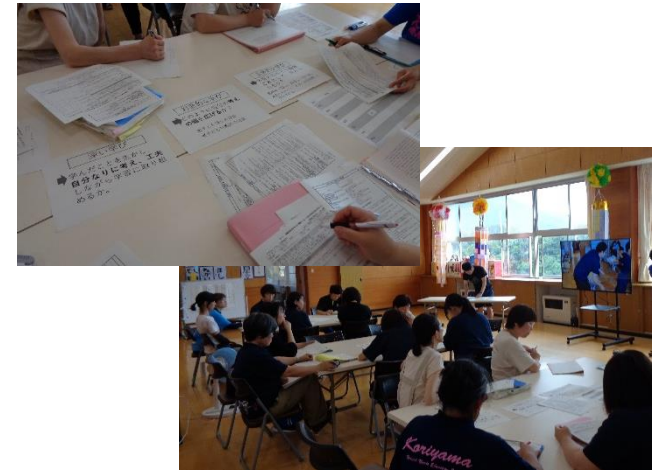
様々な様子から、積極性が感じられる。

自分の作品を発表するときの笑顔から、作る喜びが読み取れた。



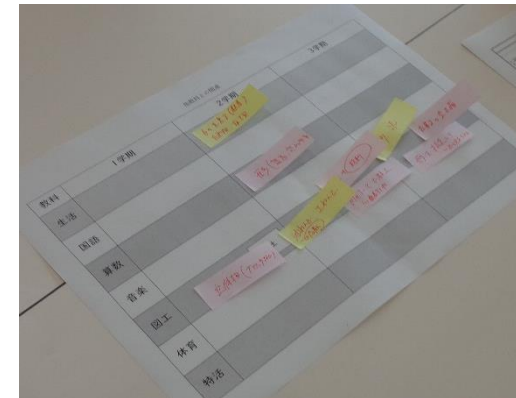
「主体的・対話的で深い学び」におけるのしかけについて

- [主体的] ○色を付ける。白い粘土だけでなく、カラー粘土も準備してはどうか。
- 白い紙皿ではなく、視覚的に分かりやすく、皿を変えてもよいのではないか。
- [対話的] ○他の児童もより見やすいように、テレビモニターの位置を変えたほうが良い。
- 「粘土がやわらかいね。」「誰と食べたい？」など、教師が言葉をかけてはどうか。
- [深い学び] ○食べ物へのイメージがより一層膨らみ、表現する意欲と楽しみをさらに育むために、今回の単元から発展した単元を設定するはどうか。
- 粘土遊びだと作って壊すことが多いが、後から思い出していろいろなものや言葉とつながっていくかもしれないので、制作したものを保存してはどうか。



今後の授業アイデアと他教科との関連付けについて

- ◎感触の違う粘土を使用したり、別のテーマで粘土遊びをしたりする。
- ◎粘土+違う素材を使用→手触りの違い・物を観察する力（生活科との関連）
- ◎粘土で作成したものをプレゼント→メッセージを添える（国語科、生活科との関連）
- ◎作った食べ物でおみせやさんごっこ→やりとりの言葉、金銭（国語科、生活科との関連）
- ◎丸、三角、四角を組み合わせた制作活動（算数科との関連）
- ◎粘土を「のばす」「ひろげる」活動（国語科、算数科との関連）



図画工作科だけでなく、他の教科との関連についてもアイデアを出し合いました。それにより教科横断的な視点で授業を考えることができ、有意義な研修になりました。